

豊かに感じ、自分で考え、行動しようとする 児童の育成 ——つながりを重視した環境教育——

発見カードを背に巣箱を持つ研究推進委員長
橋本吉尋先生



《いたばしの教育ビジョン学力向上推進研究校》 板橋区立板橋第二小学校 環境教育研究発表会（1月28日） 研究レポート

ビオトープ作りを始め、植樹や生きものを呼ぶ活動など、学校の環境を子どもたちのために大きく変えていった、板橋第二小の研究。3年にわたる研究実践を、都区内外の方々へ発信しました。センスオブアースも、3年間一緒に研究に参加させていただきました。

■「豊かに感じる子」を育てるために豊かな環境をつくる

先生方は、環境を守り、良くしていく子どもを育てるために、たくさんの自然に触れさせることから始めました。感性が豊かになるとそれを考えたり守ったりできるようになるとの見通しです。そのために、まず足下を豊かにしようと、一昨年の4月から、校庭に2カ所のビオトープをつくりました。子どもたちから案を募り、子どもたちが土のうを盛り、シートをしき、形を整えました。それから、学校中に600本の樹木を植えました。野鳥が飛んでくる学校、豊かな四季の変化を感じる学校を目指しました。小鳥たちのための巣箱も50個、バタフライガーデンも手作りしました。自然界に生かされ命はつながっているから自然を復元していったのです。今では、毎日全校の子どもたちがビオトープに立ち寄って観察してから教室に行くそ

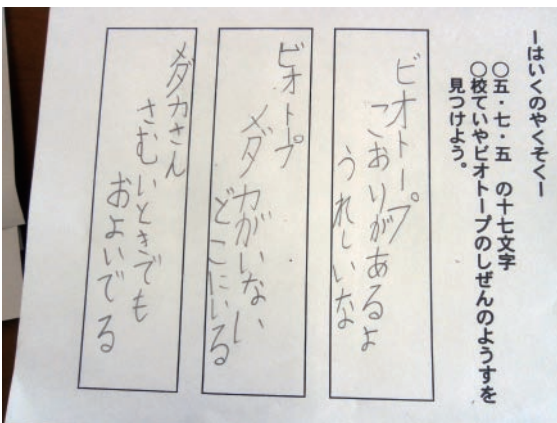
須賀原由佳先生指導の清らかな歌と
感じ考え行動した板二っ子の胸打つ呼びかけ



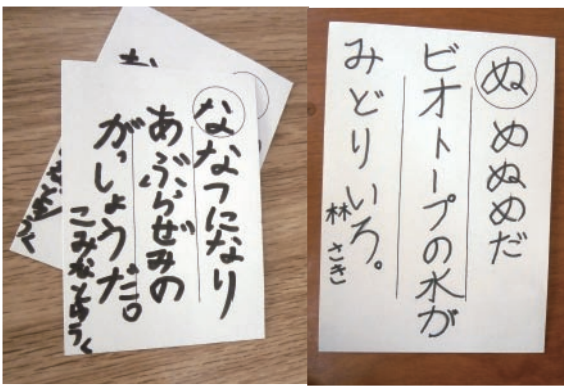
うです。毎日、生きものを発見すると、長沼校長先生・佐藤副校長先生や担任、推進委員長の橋本先生などに勇んで報告に来るのだそうです。

■教科と環境教育の一体化授業の画期的研究に取り組む

1・2年生 全学年クラスが、研究授業を行い、教科を高め、環境学習も活発になる授業の姿を追求しました。自然への感性が豊かになる中で、昨年、3年生から始まり、全校へ四季の俳句づくりが広がりました。子どもたちの自然観察と言語能力は鋭く



2年担任安部美智子先生による四季の俳句づくり

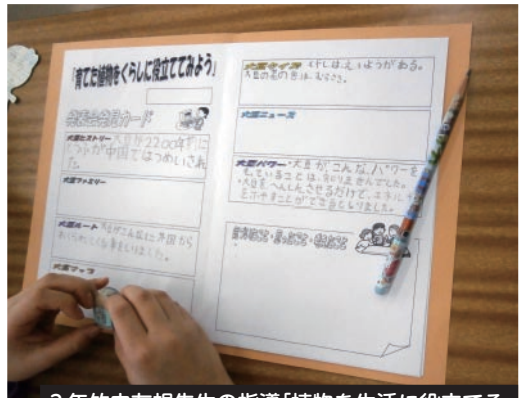


1年担任 浅見優子先生の指導による 1年生が自然をよく見て自分だけの思いと言葉で自然カルタづくり

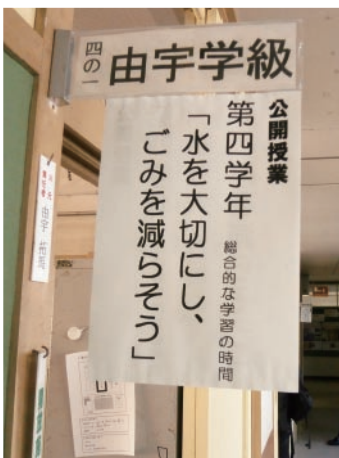
磨かれ、結果として表現力の向上、まさに教科と環境教育の一体化が進みました。どちらも互いを高める作用があることを3年間の研究は証明したのです。

今年度、教科と環境教育の一体化による表現力向上は、入学した1年生にも表れてきました。書きためてきた発見カードで、季節の変化に気付き、季節がつながり四季を形成していることを豊かに感じ、表現していきます。今後、家族の人などと楽しくカルタで遊ぶことで、自然を大事にする心、環境に対する関心を地域で高めていききっかけになることをねらっています。

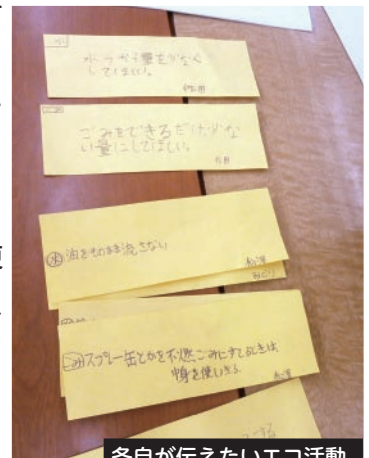
3・4年生 自然の中には、私たちの暮らしに直接役立させている植物があり、3年生は「育てた植物を暮らしに役立ててみよう。」をテーマに、育ててきた大豆の「ピカピカ野菜の発表会をしよう。」を行いました。「2, 200年前に大豆から豆腐が中国ではつめいされた。大豆がこんなに遠くから送られてくることを知りました。大豆を変身させるだけでエネルギーを増やすことができると知りました。」3年生の気付きの多さ・深さ。ワークシートの項目が、「大豆ヒストリー、大豆ファミリー、大豆ルート、大豆マップ、大豆クイズ、大豆ニュース、大豆パワー、思い気付き」など、ユニークに分かれていて、発表を聞きやすく考えを深めやすくなっていました。



3年竹内友規先生の指導「植物を生活に役立てる」



4年生は、社会科で学んできた水やゴミの問題をさらに深めるために家の人に水とゴミのエコ活動をしてもらう内容を考えまとめ発表しました。伝えたいことの中に、「水を使う量をすくなくしてほしい。ゴミを減らして。油をそのまま流さない。スプレー缶とかを不燃ごみにするときは中身を使い切る。」など、4年生が 家庭と共に環境エコ活動をしていこうとする意欲を高めていました。



各自が伝えたいエコ活動

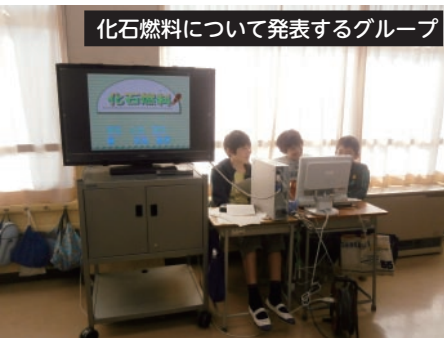
5・6年生 5年生は、近日中にNHK放送体験で発信する、板二小の全校の環境活動を放送内容にまとめる授業を行いました。ビオトープ製作・緑のカーテン・バタフライガーデン・鳥の



5年担任根本矢先生による 板二環境番組づくり授業

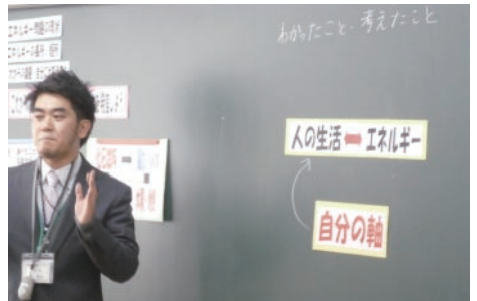
巣箱作り・米づくり・フードマイレージの学習（緑化支援一馬渡操先生）・これまでの活動と環境に対する考え方の変化や学習してよかったことを発信します。全校の活動を外部へ発信する総まとめの役目と間もなく6年生として全校をリードする立場からの内容の濃い発表でした。

「これからのエネルギーについて考えよう」まもなく中学生になる6年生。エネルギーの問題は、日本全国民の課題です。エネルギーの消費者でもある子どもたちが、『化石燃料』・『自然エネルギー』2つ・『原子力』の4つのブースに分かれ、調べたことを自分の生活と関連付け発表して主体的に考えていく意欲的な授業です。（主に考える・行動する）



化石燃料について発表するグループ

聞き手は質問意見を出し、発表者が応答、参観者からも質問があり、最後まで参観者が集まっていた関心の高いテーマであることを示していました。



6年担任鞆健治先生のまとめ 『人の生活=エネルギー』 自分の軸を持つ』

なのはな学級——自立活動学習（担任今井秀二、吉田寿美、内藤真美、林美希先生指導）

土や緑にふれさせる経験をさせる取組として、「緑の友だちを作ろう！～掌の中のビオトープ」を実施しました。

土をこねる・土でつつむ・苔でおおう・糸でまく・水につける・顔をつけるを行い、土や緑と仲良くなる、あきらめないで最後まで作るなどをめあてにしました。最後に顔をつける

という活動をいれたので、自分で工夫し創造性を膨らませたそうです。友だちというキーワードをいれた事で、親近感を持ってその後も育てていこうと意欲を持ち、課題が多い児童もいる中、みんな完成させて持ち帰ることができたそうです。『こけだまづくり』は土と緑の楽しい実践ですね。

■『手作り』にあふれた校内活動——子どもたちが中心になって、保護者や全教師・職員（竹之内重人さん、大信田節子さんたち）の支援で完成

- ・ビオトープ2カ所と、ビオトープにかけられた頑丈な橋と、周囲を囲むフェンス・石積みなど
- ・バタフライガーデン—チョウが好む樹木を集中して植えている。カラタチ・サンショ・みかん・キャベツ。すぐにキアゲハが卵を産んだ。
- ・巣箱を50個、子どもたちがつくって取りつけた。
- ・腐葉土コーナーは3か所



緑のともだち こけだまを作ったよ



図工専科駒形寿子先生指導の藍染

第12回 環境なんでも見本市 一続けよう！みんなでつくるよい環境

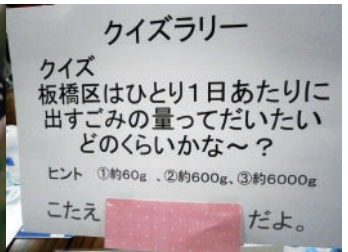
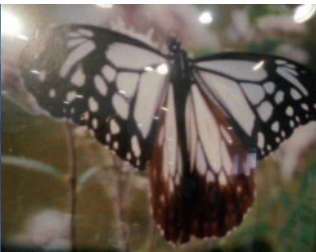
2月1日(土)～2日(日)会場 板橋区立エコポリスセンター



今年の出店参加団体は、環境系団体21、企業19、小中学校4、大学1、そのほか行政機関などを含め54団体となりました。(これまでで最大規模ですが、まだまだ団体がたくさんあるので増えてほしいですね。) 入場者は3,492名となり、2日は特に



多く、活気にあふれた見本市になりました。センスオブアースも、通算7回目の参加となり、今回は、年間を通して行っている、幼児・保育園・小中学校・大学での活動報告を写真、解説付きで掲示。子どもたちには、ドングリゴマに色をつけ、親子でコマ遊びを楽しんでももらいました。今年も、子ども連れの若いご夫婦が多く、時代が少しずつ環境問題を押し上げているのかなとうれしく感じました。企業では、エネルギー関係の会社が目立ち、CSR(企業等による社会貢献活動)としての活動で地元のスーパーや、小さな企業などの取り組みもみられました。もっともっと、区内にたくさんある団体や企業が参加しやすくなる取組にしていける必要を感じました。



企業参加 水の浄化自転車

赤塚城址で見られたノスリ

区内では珍しいアサギマダラ

答えは 600グラム

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp